

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
333	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名（原題／訳）	
<p>Total exposure and exposure rate effects for alcohol and smoking and risk of head and neck cancer: a pooled analysis of case-control studies.          アルコールと喫煙の総暴露と暴露率の頭頸部がんのリスクへの影響：ケースコントロール研究の蓄積された分析</p>	
執筆者	
<p>Lubin JH, Purdue M, Kelsey K, Zhang ZF, Winn D, Wei Q, Talamini R, Szeszenia-Dabrowska N, Sturgis EM, Smith E, Shangina O, Schwartz SM, Rudnai P, Neto JE, Muscat J, Morgenstern H, Menezes A, Matos E, Mates IN, Lissowska J, Levi F, Lazarus P, La Vecchia C, Koifman S, Herrero R, Franceschi S, Wunsch-Filho V, Fernandez L, Fabianova E, Daudt AW, Maso LD, Curado MP, Chen C, Castellsague X, Brennan P, Boffetta P, Hashibe M, Hayes RB.</p>	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
Am J Epidemiol. 2009 Oct 15;170(8):937-47. Epub 2009 Sep 10.	
キーワード	
飲酒 リスクモデル 喫煙	
要旨	
<p><b>目的：</b>          喫煙とアルコール摂取は頭頸部がんのリスクを増加させるが、量的にリスクをモデル化してがんに特定したリスクの評価はされていない。</p> <p><b>方法：</b>          われわれは 15 にケースコントロール研究を蓄積し、総暴露（年間の喫煙量と飲酒量）によってリスクを評価し、暴露比（一日の喫煙量と飲酒量）によって修正し、過剰オッズ比（EOR）をモデル化した。</p> <p><b>結果：</b>          喫煙の分析は 1,761 人の喉頭がん 2,453 人の咽頭がん 1,990 人の口腔がんを含んでいた。飲酒の分析は 2,551 人の喉頭がん 3,693 人の咽頭がん 3,116 人の口腔がんを含んでいた。コントロールは 8,000 人以上であった。15 本以上/日では、EOR/箱-年は本数/日の増加とともに減少していた。短期間の喫煙歴で本数/日が多い方が、長期間の継続で本数/日が少ないより有害ではないことを示唆した。EOR/箱-年の推定は、3 つのがんで似ていた。一方、本数/日の影響はさまざまであり、より大きな喉頭がんのリスクは本数/日や箱数/年の影響とは異なるものに由来していることを示唆した。EOR/飲酒量-年の推定は、10 杯/日を超えると増加し、短期間の飲酒歴で杯/日の量が多い方が、長期間の飲酒歴で杯/日が少ないより有害であった。10 杯/日以上はデータの限界であった。EOR/飲酒量-年の推定は 3 つのがんでさまざまであったが、杯/日の影響は似ていた。アルコール摂取による、より大きな咽頭/口腔がんのリスクは飲酒量-年や杯/日とは異なるものに由来していることを示唆した。</p>	